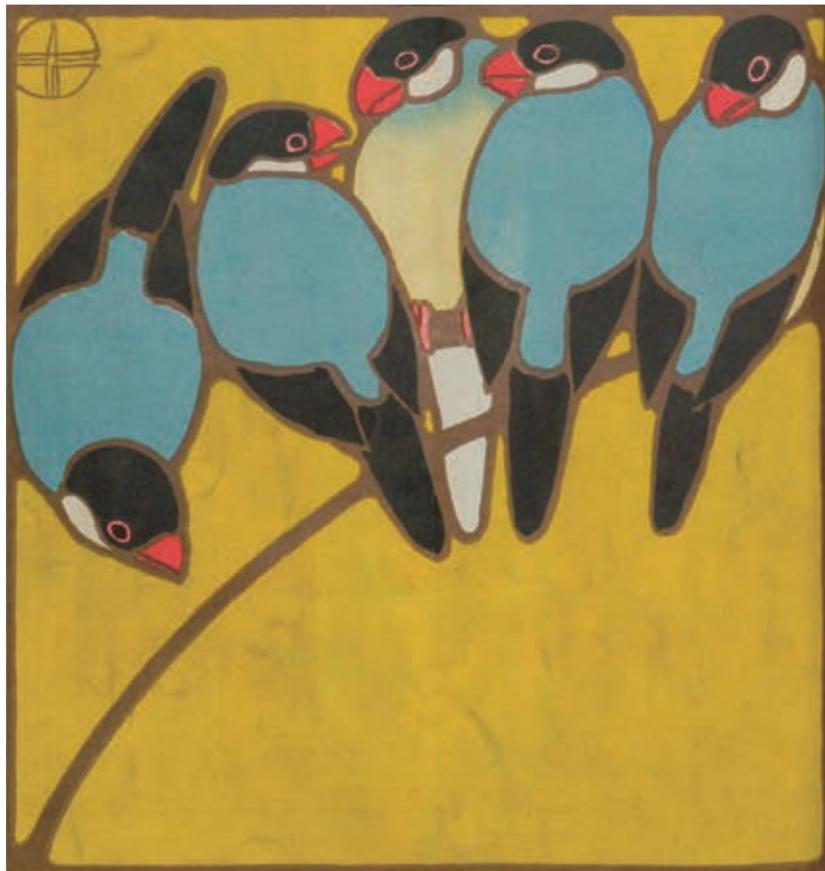

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2021.3

国立国会図書館
月報



議会開設百三十年記念 議会政治展示会
歴史をつくってきた議会、議場 —ビジュアル資料からふりかえる—
国立国会図書館にない本 特価本目録は庶民読書の証言者

719号 2021年3月

国立
国会
図書館
月報

NO. 719
MARCH
2021
CONTENTS

1 『荏土自慢名産杖』

—江戸名物のオールスター合戦
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

5 議会開設百三十年記念 議会政治展示会

歴史をつくってきた議会、議場
—ビジュアル資料からふりかえる—

16 国立国会図書館にない本

特価本目録は庶民読書の証言者（前編）

24 館内スコープ

関西館書庫ツアーミニコラム

25 本屋にない本

『平成30年7月豪雨災害（広島県）体験談集』

26 NDL Topics



表紙：杉浦非水 画
『三越』2巻3号 1912.3 25cm
<請求記号 雑 23-23イ>

『荏土自慢名産杖』 —江戸名物のオールスター合戦

鈴木加 成太



荏土自慢名産杖 3巻

山東京傳作 豊國(歌川豊国(1世))画 文化2 [1805]
1冊;19cm <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10301010>

1丁裏、2丁表。江戸名物の長・「江戸川の鯉」(左奥)とその家臣たち。鯉の頭上には江戸川名物の鯉が、妻の「白魚御前」の頭上には佃名物の白魚が、忠臣「楊枝之介房長・九郎干海苔」兄弟の頭上には浅草名物の楊枝と干し海苔が、のちに敵となる「狐兵衛ばげやす」の頭上には王子土産の狐の人形が、奥家老「栗餅右衛門」の頭上には目黒名物の栗餅が……といった具合に、江戸の名産品が「擬人化」されて描かれる。刺身を作る盤とまな板の上に鯉が堂々と腰かけているのも面白い。



今日では、ゆるいデザインのご当地マスコットやアニメ風のキャラクター、ローカルヒーローたちが地域のアピールに奔走しています。名物に手足を付けたたり、ゆかりの衣装を身に付けたりしただけの見た目がストリートすぎるキャラクターたちは、そのストーリートさゆえに、馴染みのない土地も親しく身近に感じさせる不思議な魅力を持っています。

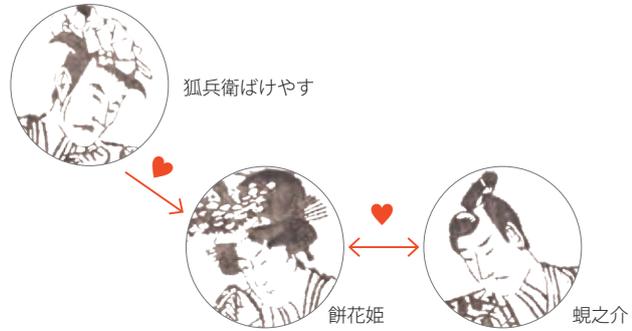
今回ご紹介する『荏土自慢名産杖』^{えどじまんめいさんづゑ}は、今から200年ほど前の東京、つまり江戸で刊行された3冊15丁(30ページ)の短い絵入り読み物で、この中では江戸の名産品が「擬人化」されて登場し、一幕の物語を演じます。



(下) 2丁裏。餅花姫と蛭之介の密会を狐兵衛ばけやすが覗き見ている場面。蛭之介(手前右)には美男子で知られた沢村源之助(四代目沢村宗十郎)が擬されている。

(左)「瀬川路三郎・沢村源之助」豊国画

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1312682>



本書のあらすじ

物語の舞台は、江戸の名産品が人間の姿で暮らす世界。江戸名物の長である「江戸川の鯉」の一人娘「餅花姫」(目黒不動尊名物の餅花)は、密かに思い合う「業平蛭之介」(亀戸名物の業平蛭)との仲(A)が露見し、処罰されそうになったところを辛くも逃れるが、二人の仲に嫉妬する「狐兵衛ばけやす」(王子稻荷の土産物)は、餅花姫を奪い取ろうと次々に追っ手を差し向ける。狐兵衛ばけやすはその一方で江戸名物の長の座を狙う「初鯉」(B)に近付き、初鯉を担いで鯉の家ごと乗っ取ろうと謀略をめぐらせる。

幾度も窮地に立たされる餅花姫と蛭之介だったが、頼もしい味方(C)や鯉の重臣と家族たち(D)などに助けられて切り抜ける。また、初鯉の野望は次第に人の知るところとなり、「江戸紫」(江戸で染めた紫の染めもの)に追及される。

ついに鯉と初鯉の全面対決の火ぶたが切られようとしていたところ、江戸名物の新顔の福助人形が「花のお江戸の名物に優劣はつけられない」と双方をなだめたため、鯉と初鯉は和睦、狐兵衛ばけやすの悪たくみは不問となり、餅花姫と蛭之介は結婚を認められてめでたく幕となる。



本作には、初鯉や江戸前鰻の蒲焼、都鳥、練馬大根など今日まで伝わる江戸のアイコンから、「最中の月」や堅巻煎餅といった吉原の名菓、浅草楊枝や伊皿子麩など現代にはない名物まで、実に約50種類の名産品が登場します。

頭上にただ実物を載せただけの登場人物の姿を眺めるだけでも十分楽しめますが、一つの場面にも、江戸のエッセンスがしっかりと詰め込まれています。たとえば、実在の歌舞伎役者をモデルにしたとされる登場人物たちの個性的な容貌(上画像参照)や、人気歌舞伎演目の名シーンのパロディ(4ページ参照)は、一級の花形文化が日常に溶け込んでいた江戸の町の活気を感じさせます。また、名産品にちなんだ語を繰り出す言葉遊びや、真剣な場面にもちゃっかり顔を出す笑いには、からりと元気で調子のよい江戸っ子たちの性格も投影されているでしょう。

このように奇想と軽いかしみを基調とした短い絵入り読み物は「黄表紙」と称されており、江戸固有の文芸として爆発的な人気を博しました。本作の作者の山東京伝(1761・1816)も、洗練された言語遊戯と柔軟な発想、鋭い観察眼を活かし、黄表紙をはじめとしたさまざまなジャンルで傑作を著したベストセラー作家の一人です。



4丁裏、5丁表。狐兵衛げややすの手下たちを「江戸前大蒲焼」（江戸前鰻の蒲焼）が返り討ちにする場面。その戦いぶりは鰻尽くしで描写される。

放し鰻（供養のために鰻を買って川へ放す風習）というように放してはつかんで投げ、八つ目鰻の名にもある「目」つぶしを食らわせ、大串が来ようと小串が来ようと終始（すじ）夢中（始めから終わりまで熱中して行うこと。「終始」と背にすじ模様がある「筋」鰻をかける）で戦い、長焼きだろうと白焼きだろうとお望みしたいと立ち回り……山椒を血にばらばらと散らすように散々ばら打ちのめす（筆者による現代語訳）



江戸川の鯉

VS



初鯉

（右）6丁表。初鯉（左奥）とその家来たち。家来の名は「からし味噌八」（右奥）、「大根おろし四郎」（右中）、「わさびおろし」（右手前）となっており、当時はからし味噌や大根おろし、わさびで鯉を食していたことがわかる。大志に燃える初鯉いわく「花鯉咲かせるぞ」。

（左）11丁表。餅花姫の行方を探す「寒紅梅」と「福寿草」（鯉の重臣の家族）は、植木屋で踊り手に扮して情報収集をする。客席に並んでいるのはかぼちゃ……ではなく、砂村（現在の東京都江東区北砂・東砂・南砂の一带）名物のすいかと冬瓜。





1丁表。京伝と弟の京山に共通の号である「山東庵」の蔵書印が見える。

(上下) 13丁表。浄瑠璃・歌舞伎『ひらかな盛衰記』の無間の鐘の場のパロディ。『ひらかな盛衰記』ではヒロインの梅が枝（うめがえ）が金に困った恋人のために三百両の金を天から降らせるが、本作では「錦絵」（江戸紫の恋人。江戸名物の多色刷りの浮世絵）が梅が枝をまねて「金がほしいナア」とつぶやくと、兄の「川口屋の鮎内」（鯉の重臣の僕。目黒名物の川口屋の鮎）は「鮎がほしい」と聞き間違えて自慢の鮎を降らせる。

(左上) 歌川豊国（3世）（歌川国貞（1世））画「[廓操無間の鐘優]」嘉永7（1854）年3月
東京都立図書館特別文庫室所蔵 <https://archive.library.metro.tokyo.lg.jp/da/detail?tilcod=0000000003-00014472>

しかし、風紀の乱れを憂慮した幕府により出版統制が敷かれた寛政の改革を経て、江戸文芸の潮流は硬派な長編小説へと移ってゆきます。実は、本作が刊行された文化2（1805）年は、30年あまり続いていた黄表紙の命脈がまさに潰えようとしている時期にあったのです。

本作の末尾では、江戸名物の長であった「江戸川の鯉」が野心あふれる「初鯉」と若い「江戸紫」にその座を譲って隠居するという世交代が描かれますが、そこには、自らの手で支えてきた黄表紙の時代の終焉を目前にした京伝の思いも反映されていたのかもしれない。

当館所蔵の『荏土自慢名産杖』には「山東庵」の印が見え（左上画像）、京伝の身近に置かれていたものとも考えられます。そのページをめくると、時代から遠ざかりつつある「江戸らしさ」を物語に封じ込めようとした京伝の息遣いも伝わってくるようです。

○参考文献

- 山東京傳〔著〕、山東京傳全集編集委員会編『山東京傳全集 第5巻（黄表紙5）』ベリかん社 2009<請求記号 KG235-J3>
- 棚橋正博 著『山東京伝の黄表紙を読む 江戸の経済と社会風俗』ベリかん社 2012<請求記号 KG235-J6>
- 佐藤至子「名物の産地にみる江戸の広がり 黄表紙『荏土自慢名産杖』の分析から」『語文』145:2013.3<請求記号 Z13-174>
- 山本陽史「史料紹介『荏土自慢名産杖』」『飲食史林』6:1985.12<請求記号 Z8-1587>

議会開設百三十年記念

議会政治展示会

歴史をつくってきた議会、議場
—ビジュアル資料からふりかえる—



国立国会図書館では、令和二(二〇二〇)年一二月一〇日から一三日まで、東京本館の新館一階展示室において議会開設百三十年記念議会政治展示会を開催しました。この展示会では、議会政治の歩みを刻む歴史資料を中心に約一五〇点の資料を出陳し、衆参両院の議長をはじめ多くの来場者をお迎えすることができました。

当館は国立の図書館であるとともに、議会の図書館です。令和二年一月二十九日、参議院の本会議場において、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、議会開設百三十年記念式典が行われました。議会開設記念の式典は一〇年ごとに行われています。当館が今回実施した展示会も、国会が行う記念行事の一環としての性格を有しています。

過去の記念事業の成果として発刊された資料集もあります。例えば、衆参両院の編集発行にかかる『議会制度七十年史』『議会制度百年史』は類書がないことから、議会制度を知る基礎的な文献として、今なお重宝されています。¹⁾

今回、コロナ禍のため、両院での記念行事において人気の催しとなっている国

国立国会図書館と議会開設記念展示会 (70年～120年)

名称	会場	会期	院内展示
議会開設七十年 記念議会政治展 示会	尾崎記念会 館	昭和 36 (1961) 年 1 月 27 日～2 月 2 日	昭和 35 (1960) 年 12 月 24 日 参議院予算委員 会室
議会開設八十年 記念議会政治展 示会	国立国会図 書館 3 階展 示室	昭和 45 (1970) 年 12 月 1 日～7 日	11 月 29 日 参議院第一委員 会室
議会開設九十年 記念議会政治展 示会	憲政記念館 展示室	昭和 55 (1980) 年 12 月 1 日～7 日	11 月 29 日 参議院第一委員 会室
日本の議会 100 年一議会開設百 年記念議会政治 展示会	国立国会図 書館新館 1 階展示室	平成 2 (1990) 年 11 月 30 日～ 12 月 7 日	11 月 29 日 参議院第一委員 会室
議会開設百十年 記念議会政治展 示会	憲政記念館 展示室	平成 12 (2000) 年 12 月 1 日～7 日	11 月 29 日 参議院第一委員 会室
議会開設百二十 年記念議会政治 展示会	憲政記念館 第 2 第 3 会 議室	平成 22 (2010) 年 12 月 1 日～ 10 日	11 月 29 日 参議院第一委員 会室

なぜ、国立国会図書館が 10 年に 1 度の節目で議会政治にかかわる展示会を実施しているのか。10 年ごとの「慣例」といえばそれまでですが、当館と議会政治展示会や記念行事とのかかわりには、70 年近い縁があります。

議会開設 50 年の記念行事の一環として、昭和 15 (1940) 年 11 月 29 日に (国立国会図書館がまだない頃に) 貴族院本会議場での式典と同日に、貴族院予算委員会室で開催された記念展示会は、その嚆矢となりました。同展示会では、明治憲法 50 年記念事業の過程で発見された明治憲法制定や議会制の歩みに関する秘蔵資料が多数出陳されました。この背景には、明治憲法制定 50 年記念事業としての貴衆両院による資料検索・写本作成があり²、この作業が戦後、のちに憲政資料収集の基礎を作ったのです³。そのため、議会開設の記念行事は、いわば憲政資料室の資料収集の淵源にかかわるといっても過言ではありません⁴。

戦後、当館の創設は昭和 23 (1948) 年。その 2 年後にあたる昭和 25 (1950) 年には議会政治展示会は行われませんでした⁵、昭和 35 (1960) 年に国会の記念行事の一環として展示会が行われ、その後、10 年ごとに展示会を開催しています。

会議室の特別参観は実施されず、院内での資料展示も行われぬなどの変更がありました。一方で、新たなコンテンツが記念ホームページを通じて公開されるなどの試みもありました。

展示準備の開始

準備する側からすると身が引き締まるような一〇年に一度の展示会ですが、議会政治の節目を示す史料を展示するといっても、重要な歴史資料はあまたあります。議会制の歴史は長く、その流れは複雑です。長年にわたる資料収集や、研究の進展もふまえながら、どの資料を選ぶのかなども難しいことで、今回の出陳資料数は一五〇点以上に及びました。

展示準備を始めたのは、展示会開催の一年ほど前のことでした。政治家の旧蔵文書を収集してきた憲政資料室にかかわる職員だけではなく、議会資料、図書、古典籍資料を扱う部門の職員など、総勢二〇名以上で資料の選定を始めました。

選ばれた資料は議会制の創設や明治憲法の制定過程にかかわる資料、自由民権運動等の資料、いわゆる「翼賛政治」にかかわる資料、55 年体制の成立やその後

の多党化政治に向かう流れにかかわる資料など様々です。この中には近年の収集にかかる資料も含まれ、帝国議会時代の衆議院本会議場の写真など、展示直前に憲政資料室での公開にこぎつけた資料もありました (「小川平士閣係文書」二〇二四。憲政資料室にて令和二年一月一九日公開)。

各章の内容は多彩であり、担当者全員の立場をとっても代弁できるものではありませんが、この記事では、展示のうち、主にビジュアル面が重視される「特設コーナー」貴重図面と写真帖にみる仮議事堂「第 4 章 白亜の殿堂 誕生 17 年がかりの議事堂建築」の担当者という立場に引き寄せて、準備段階での逡巡を列挙する形で展示を振り返ってみたいと思います。また準備過程で見つけたビジュアルな資料のうち、展示に採用できなかった珍しい写真を紹介したいと思います。

コロナ禍の中の準備作業

歴史的な一級資料を展示することと同時に、当時の議会や議事堂の内外の情景をビジュアル資料を活用して示すことができないか。そうなるといきおい、現在の議事堂だけではなく、過去の仮議事堂



展示構成

- 第1章 議会制度ができるまで
- 第2章 議会開会と仮議事堂の建築
- 第3章 国民の政治参加と政党政治の進展
(特設コーナー) 貴重図面と写真帖にみる仮議事堂
- 第4章 “白亜の殿堂” 誕生：17年がかりの議事堂建築
- 第5章 議会の危機の時代
- 第6章 帝国議会から国会へ
- 第7章 55年体制の成立と展開
- 第8章 多党化の時代へ
- 第9章 国民に開かれた国会へ



上：展示会場へと降りる階段
左上：展示会場の様子

しかし、資料選定やプランづくりの佳境にあった令和二年春頃の時期はコロナ禍のただなかにあり、私たちが観察のために複数人で敷地をうろろろすることは得策ではなく、断念しました。

一方、緊急事態宣言の発出やコロナ問題の対応などで国会の動きは慌ただしく、密集を避けるため、本会議場の中の慣習や利用する委員会の部屋に特別な変更が生じていることは、メディア越しにもうかがえました。傍聴、参観等も縮減され、議事堂への出入りが日常よりも一層制限された時期だからこそ、そこで

にも思いを致す必要がある。単純ながらも、こうした発想から、議会、特に議事堂の中で撮られた写真や画像探しに取り組みました。

東京本館（永田町）に勤務する私たちにとって、国会議事堂は、通勤経路において毎日のように見かけるご近所の建物です。職種によっては業務を通じて頻繁に出入りする建物に他なりません。担当者としては、生きているコンテンツともいえる現議事堂の観察が出发点になるだろうという目論見を持っていました。文献を超えた気づきを得たかったからです。

議事堂の変遷

第1次仮議事堂	明治23年 11月竣工	麹町区内幸町
第2次仮議事堂	明治24年 10月竣工	麹町区内幸町
広島臨時仮議事堂	明治27年 10月竣工	広島市基町
第3次仮議事堂	大正14年 12月竣工	麹町区内幸町
現議事堂	昭和11年 11月竣工	麹町区永田町 (現千代田区)

本格的な議事堂を建てようとする動きは火災で焼失しました。

現在の議事堂（永田町）は着工から竣工まで実に一七年がかり。それに先立つ五〇年近い仮議事堂（内幸町（日比谷）の時期があり、「仮」の時間の長さを思っています。第一次仮議事堂、第二次仮議事堂は火災で焼失しました。

複雑な建設の過程

現議事堂の竣工は昭和一一（一九三二）年、それに先立つ議事堂は「仮議事堂」と呼ばれ、日清戦時に広島に置かれた広島臨時仮議事堂を含めれば、仮議事堂は四種に及びます。

伝えられる審議の様子や会議の意義について、改めて、考えさせられました。

は長引き、様々な構想や議論が重なり合います。

諸種の図面はあるものの、部屋の名称にも変更があります。貴／参と衆でも細かい相違があり、残されている絵や写真を見ただけでは、どの議事堂の何をいつとらえたものなのかはときに明瞭ではありません。錦絵等の描写にはデフォルメが生じがちですし、建物自体に改築が行われていることもあります。資料に写っているものの年代が判然とせず混乱することがしばしばありました。

何が議会の雰囲気伝えるビジュアル資料なのか

一つの議事堂につき上限八枚でパネルを作成する。この制約で写真を選定することになりましたが、これが意外に難題でした。

思いのほか難渋したのは、写真を選ぶ上で、担当者の私たち数名の間であつてさえも、意見が分かれがちだったからです。好みの問題はさておき、突き詰めれば、どのような「絵」が議会の様子を代表しているのかに通ずる問題のように思われます。

例えばある担当者は、議長室の変遷に興味をひかれました。今日、議長室や長応接室は議会の権威を象徴する空間として取り扱われるからです。内閣総理大臣室とどのように調度が変わるのかにも興味をひかれました（11ページ参照）。しかし、ある担当署からは、そうした写真の展示だけでは机と椅子ばかりの印象を与え、議会らしさが伝わらなくなる、という意見が出ました。

また、ある担当者は議会の象徴とされる外観全景の写真に見飽きてしまい、展示から省きたいと主張しました。しかし、外観は設計者の意図がこめられる象徴でもあり、最低限展示しておくべきだという意見が主流を占めました。また、ある担当者は、空間構成の観点から写真に写る「柱」や「階段」を重視してパネルを作成すべきだという意見を示しました。

こうした見解の違いをめぐって議論することは楽しいものですが、縮切りを忘れて迷い続け、全体を俯瞰しての総まとめをしてきている側の職員を苛立たせてしまったかもしれません。

通時的な視点で見る

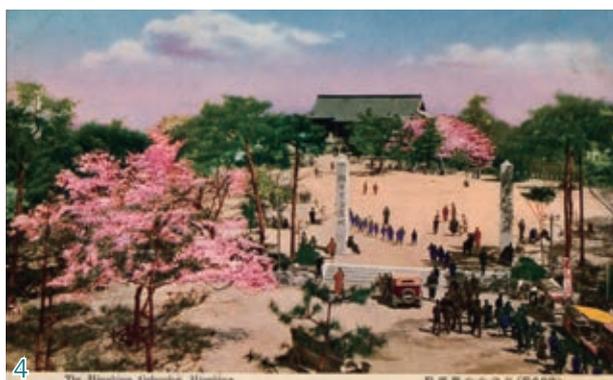
議事堂という建物に限りませんが、外観に比してその内部の変遷は、分かりにくいことがあります。

今回、一三〇年をさかのぼるために仮議事堂の写真を探すことになりましたが、議会の本質である、議論を行う場という観点から、似た役割を持つ部屋を眺め直すことで、興味深い推測が生じることにも気づかされました。

便殿

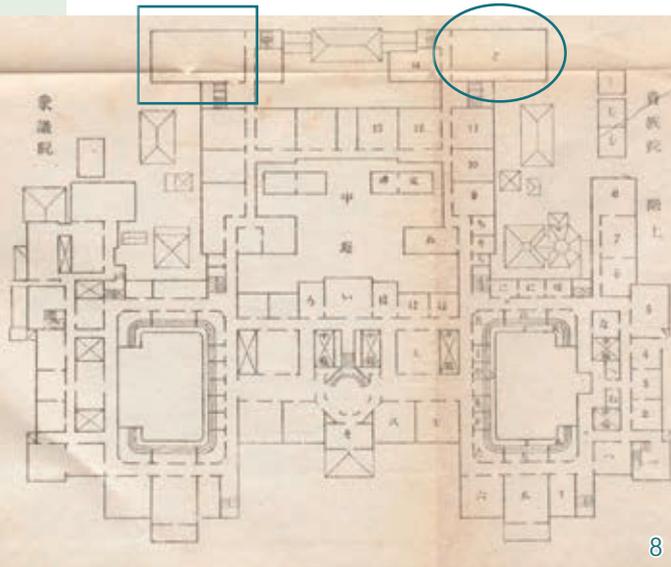
天皇（皇族）の休憩所。

- 1 第1次仮議事堂 便殿（出典C）
- 2 第2次仮議事堂 便殿（出典D）
- 3 第3次仮議事堂 便殿（出典F）



4 広島臨時仮議事堂の便殿。日清戦争時に広島に置かれた臨時仮議事堂はのちに取り壊されたが、便殿部分のみは、広島比治山に移設された。原爆により全壊。絵葉書の奥に便殿を保護するために建てられた覆堂が見える。（広島県立文書館所蔵絵葉書「比治山御便殿」）

貴族院の談話室と予算委員室



- 5 第1次仮議事堂 貴族院の談話室（出典 C）
 6 第2次仮議事堂 貴族院の談話室。この写真では、予算委員会を開くしつらえがなされている。（出典 D）
 7 第2次仮議事堂 貴族院の速記係室（出典 D）大正 3（1914）年 3 月 23 日
 8 第2次仮議事堂の配置図 2 階（大正 7（1918）年 12 月）（出典 A）。右側が貴族院、左側が衆議院。○で囲んだ場所は貴族院の談話室、□で囲んだ場所、つまり談話室と対の位置が衆議院の予算委員室。

予算委員会開催場所としての貴族院談話室

例えば、第一次及び第二次仮議事堂の貴族院には談話室という部屋があります【写真5、6】。

大正初期の写真によると、第二次仮議事堂の貴族院の予算委員会は、談話室【写真6】で開かれていたようです。このことは、当時の貴族院事務局の速記係室の壁に貼られた張り紙の記載【写真7】や貴族院彙報の記載からも裏付けられます。

貴族院が委員会を開く部屋としては談話室は最大のスペースを誇り、場所的に対にあたる衆議院では部屋の名称自体が「予算委員室」となっていますから、ある程度領けることがあります。

貴族院の予算委員会の様子がかいま見える【写真6】は、ことに珍しいショットです。というのも、貴族院の予算委員会は衆議院と異なり、戦後の例外を除けば、傍聴人だけでなく記者も入れません。そのため、貴族院の予算委員会は取材等の目的でも写されることがなく、貴重なのです。予算委員会は最重要の委員会の一つだけに、貴族院と衆議院の委員会の開催の雰囲気を考える上では、一葉の写



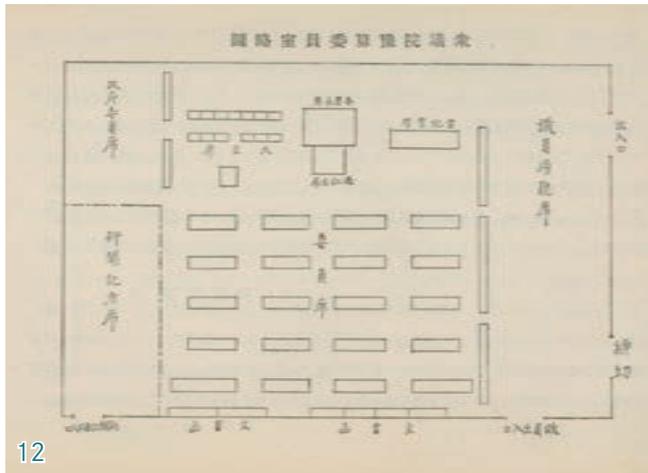
10

9 第2次仮議事堂 衆議院予算委員室 (出典 D)
10 第3次仮議事堂 衆議院予算委員室 (出典 E)

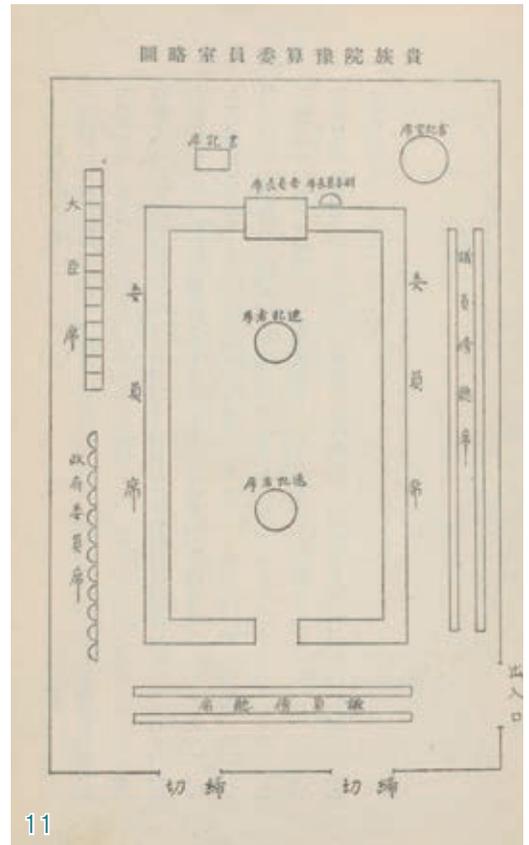


9

11 第3次仮議事堂貴族院予算委員室略図 (出典 B)
12 第3次仮議事堂衆議院予算委員室略図 (出典 B)



12



11

真といえども、大きな手掛かりになると感じます。

【写真6】にみるように、大正初期の第二次仮議事堂の貴族院の予算委員会では、机の並び方は、委員長を頂点にコの字型に、中央に速記席を持つ円卓(楕円)を囲む型です。一方、同時期の衆議院では、前に演壇を持ち、教室のように、一方を向いて委員が並びます【写真9】。

第三次仮議事堂の予算委員会でも、貴族院と衆議院の机の配置は各々第二次のそれと似ています【写真11、12 昭和六年頃】。

ちなみに現在は、衆議院も参議院もどちらも(予算委員会の)委員は一方を向いて座る形です。

細かな気づき

もう一つ、事務局の執務風景を捉えた珍しい写真から気づかされるのは、服装や暖房器具、張り紙といった細かな変化や課ごとの特色です。殺風景ながら、書類の束が多い庶務課【14ページ】、張りに実用的情報が多い速記部門(速記係)、といった印象を受けました。

意匠上の問題と実用上の問題が両方あるものの、暖房器具が部屋の雰囲気にと

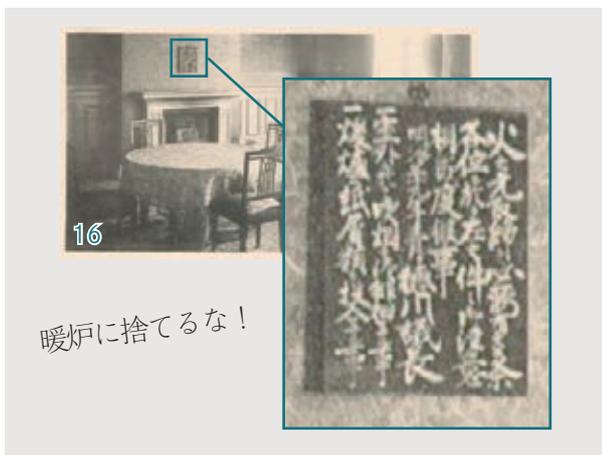
内閣総理大臣室



議長室 (衆議院)



- 13 第2次仮議事堂 衆議院議長室 島田三郎議長 (出典 D)
- 14 第3次仮議事堂 衆議院議長室 富田幸次郎議長 (出典 E)
- 15 現議事堂 衆議院議長応接室 (サロン) (竣工時) (出典 G)
- 16 第2次仮議事堂 内閣総理大臣室 (出典 D)
- 17 第3次仮議事堂 内閣総理大臣室 (出典 F)
- 18 現議事堂 内閣総理大臣室 (竣工時) (出典 G)



暖炉に捨てるな!

える影響は大きかったように思われます。第二次仮議事堂（大正初期）の内閣総理大臣室の写真では、火元取り締まりの観点から暖炉への紙屑投入を禁じた議長名での張り紙が見られ【写真16、左拡大画像】、実用の暖炉であったことを示しています。一方、設備は部屋によって異なり、同時期の事務局の部屋には火鉢が見られます【写真21】。

このような情報が議会のリアリティを捕まえることにつながるのか、それともトリビア止まりなのか。細部をつなぎあわせるうちに興味深い発見が生じることもあります。今後も考え続けていきたいと思いました。

聞いてみました！ —仮議事堂の模型制作のこと

今回の会期中、最も目を引いた展示物のひとつが、展示室中央に置かれた、縮尺50分の1の第1次仮議事堂と広島臨時仮議事堂の模型でした。

どちらも、昭和女子大学の堀内正昭研究室により制作されたものです。中心となった堀内先生は、日独建築交渉史を専門とされ、特に明治政府の依頼により来日し、明治19(1886)年に国会議事堂の設計図を作成したドイツ人建築家、エンデ&ベックマン(Hermann Ende、Wilhelm Böckmann)の研究で知られています。1990年代前半には、エンデ&ベックマンの遺作である、法務省旧本館の復原改修工事にも、設計監修者として参加されています。

堀内先生に、模型制作にまつわるお話をいろいろと伺いました(以下、先生のお話をもとに、当館で編集を行っています)。



上：第1次仮議事堂の模型
下：第1次仮議事堂 傍聴席 (出典 C)

Q. 第1次仮議事堂の模型制作のきっかけはなんですか。

A. きっかけは、平成16(2004)年3月、神田の古書店主が古物市場で見出した平面図*との出会いでした。

エンデ&ベックマン建築事務所の所員が設計に携わった第1次仮議事堂は、竣工からわずか2か月足らずで焼失し、関連図面も関東大震災で失われました。謎の多い建築とされていたので、着工直前と推定される平面図は、大変貴重な発見でした。

しかし、平面図が発見されても、依然として第1次仮議事堂の建築には、多くの謎が残されていました。その謎を解明したくて、平成18(2006)年の夏休みに、5、6名の学生たちと一緒に模型制作に取り掛かりました。

※現・昭和女子大学図書館蔵

印象深い出会い

展示の準備の過程では、印象深い出会いもありました。

それは、議事堂の研究を長年にわたって続けてこられた堀内正昭先生(昭和女子大学生活科学部環境デザイン学科)の研究室において、仮議事堂の模型を拝見することができたことでした。第一次仮議事堂は、第一回帝国議会会期中途中、竣工から二か月足らずで焼失してしまいました(漏電が原因といわれています)。私たちが議事堂の模型の存在を論文から知り、⁽⁷⁾ 拝見を願って大学を訪れたのは、令和二年三月二六日のことでした。

第一次仮議事堂は記念すべき第一回帝国議会の舞台であり、その動向を伝える文献には速記録をはじめよく出会います。しかし、建築史に疎い私たちは、三次元の立体に鮮烈な印象を受けました。その印象のうち、とりわけ興味深かったのは、第一次仮議事堂の本会議場における二階席(傍聴席や記者席)と一階席(議員席)との間の距離感を体感できたことです。明治二三(一八九〇)年一月、待望された第一回帝国議会への注目は高く、当時の報道からは傍聴券を求め

Q. 広島臨時仮議事堂の模型を製作したのは、議会に特別な関心があったからですか。

A. そういうわけではありません。第1次と第2次仮議事堂と同様に、「ドイツ小屋」の小屋組が採用されたのではないかと思ったからです。しかし、実際に模型での復元を試みると辻褃があわず、再考の結果、当時地元で親しまれていたキングポストラス(真束小屋組)だったのではないかという結論に至りました。



広島臨時仮議事堂の模型

限られた資料から、日本の議会政治の始まりを見守った建築を復元する作業には、さまざまな苦労があったと思われます。「資料は揃いすぎては面白くない。断片的だからこそ、解明する楽しさがある」というお言葉からは、先生の研究者魂を感じました。

Q. 一番力を入れたのはどの部分ですか。

A. 屋根です。もともと、明治時代に日本で「ドイツ小屋」と呼ばれた屋根の構法(支柱を使わずに大きな屋根を架ける技法のひとつ)に興味を持っていました。第1次仮議事堂の屋根もその構法を応用していると考えていたので、発見された平面図と、わずかに残る写真、当時の時代背景などを参考にして図面化し、さらに検証を進めるために貴族院議場の模型を制作しました。

Q. 第2次と第3次仮議事堂の模型について、今後制作予定はありますか。

A. 予定はありません。謎を検証するために模型を作るのですが、第2次については第1次と同様のドイツ小屋で復元図ができたこと、第3次については工事中の写真から小屋組が判別できたので、模型での検証は不要と考えています。残された資料が断片的だからこそ、解明する楽しさがあります。



る人々の様子が感じとれます。新聞記者もまたこの二階席にいたため、審議を報じる目はこの二階席を出発点とするのです。

わずかに残る写真【右ページ】で見ると、限り二階席は狭く見えます。しかし、議員の着席する議員席と、その上の階に設けられた二階席部分との距離感は、この写真からは今一つつかめず、かねて疑問に思っていました。

図面や残存する画像史料を博捜し、推理をつなぎあわせながら作成された模型だったからこそ、私たちが新聞などの文献で見聞きしていた雰囲気と符合し、往時に心を飛ばしてくれたと思います。

堀内先生は、ここまで熱心にこの模型を見た人たちは今までいなかったとおっしゃり、展示への出陳を快諾してくださいました。火災による焼失で二か月弱しか存在しなかった第一次仮議事堂に対する分析とその成果物である模型を目的の当りにし、コロナ禍の中で私たちが議事堂をのんびり探検できないことを嘆いてはいられないと思われました。本物の議事堂が近所にあるだけでも有難いことなのです。

貴族院や衆議院の事務局

議事課



庶務課

警務課



- 19 第2次仮議事堂 貴族院事務局議事課 (出典 D)
- 20 第3次仮議事堂 衆議院事務局議事課 (出典 E)
- 21 第2次仮議事堂 貴族院事務局庶務課 (出典 D)。左手前の人物は毛筆で何かをしたためている。足元には竹で編まれた肩籠、手元には火鉢が。
- 22 第3次仮議事堂 衆議院事務局庶務課 (出典 E)
- 23 第2次仮議事堂 衆議院事務局警務課 (出典 D)

永田町という土地の選定について

私たちの執務場所である永田町という土地の選定にも長い歴史があると思われきました。永田町に議事堂を置くことが決まったのは、明治二〇年頃とされていますが、その選定に影響を与えたドイツ人建築家・ベックマンによれば、永田町は高燥の地であり地盤がよいとされています^⑧。現在の永田町の地に議事堂が実際に置かれたのは現議事堂が竣工した昭和一年のことになりますが、国家の重要な施設の建設地として永田町が選ばれた^⑨こととなります。すでに国会の代名詞となっている永田町ではありますが、日常あまり永田町という土地の地盤の良さについて深く考える機会がなく、灯台もと暗し^⑩でした。

展示をふりかえって

たとえ職員であっても、通常であれば民撰議院設立建白書の草稿（古沢滋関

係文書」一三）などのデジタル化済みの資料を原本ではなかなか見ることができません。展示を通じて数々の現物資料を一度に見られてよかった、といったお声もいただき、画像とは異なる現物の力を感じました。

末筆ながら、当展示会においては、各機関・個人から貴重な資料を借用させていただきました。また、展示に先立って、小林和幸先生（青山学院大学文学部）、佐々木雄一先生（明治学院大学法学部）、松本洋幸先生（大正大学文学部）、村井良太先生（駒澤大学法学部）の各先生方には、立憲制の歩みや憲政資料室所蔵の日記の特徴、歴史的な資料の展示手法等について、展示担当者に対してご講義いただき、有益なご教示を賜りました。厚く御礼申し上げます。

（筆名ふみ、牛島靖欧、
中嶋恵子、藤元直樹）

See also.....

【ミニ電子展示 本の万華鏡】

この展示の関連企画として令和2（2020）年10月から「国会議事堂ができるまで」というサイトの公開も始まりました。展示では不採用になった写真・錦絵なども紹介されています。

<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/28/index.html>



【展示会目録】

展示会の目録は当館ウェブサイトで公開されています。

https://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/exhibition2020_tokyo_list.pdf



【本誌記事】

2020年5月号「資料の世界の歩き方 写真を読む 第3回 国会議事堂の中のカメラと記者—議会の報道と記録—」でも議事堂内の写真を多数紹介しています。

<出典>

- A 『貴族院要覧 甲』1918.12 増訂<請求記号 BZ-1-1 >
- B 田口弼一『帝国議会の話』啓成社 1931 <請求記号 599-311 >
- C 『帝国議事堂写真』 <宮内庁書陵部図書寮文庫蔵 B9-34 >
- D 『帝国貴衆両院写真画帖』東京タイプ社 1917<個人蔵>
- E 『仮議事堂記念写真』[衆議院] [19--] <請求記号 YKA11-19 >
- F 『帝国議会仮議事堂建築記念』光明社 1925 <請求記号 YQ2-1621 >
- G 大蔵省官繕管財局編『帝国議会議事堂建築の概要』大蔵省官繕管財局 1936 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1907710>
- 1 衆議院、参議院編『議院制度七十年史』大蔵省印刷局（印刷）1960-63 <請求記号 314.2-Sy996g >、同『議院制度百年史』1990 <請求記号 AZ-241-E19>
- 2 写本の大半は当館憲政資料室所蔵。
- 3 二宮三郎「憲政資料室前史（上）」（『参考書誌研究』43 1993. 9）pp.50-73。「憲政資料室前史（中）」（同誌 44 1994. 8）pp.22-46。「憲政資料室前史（下）」（同誌 45 1995.10）pp.18-47。<請求記号 Z21-291 >
- 4 詳細は当館ウェブサイト リサーチ・ナビ「憲政資料室の歴史」のページを参照。<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/kenseihistory.php>
- 5 昭和26（1951）年に開催した憲法資料展示会など興味深い展示会も当館内で開催されています。
- 6 現在の委員室につき紹介したサイトとして 衆議院委員部 動画で見る衆議院の委員室 一委員室の紹介—（衆議院事務局チャンネル）
<https://www.youtube.com/watch?v=L0fK68OpR8Q>
参議院ウェブサイト 国会体験・見学 > 国会議事堂案内 > 委員会室
<https://www.sangiin.go.jp/japanese/taiken/gijidou/7.html>
- 7 堀内正昭『初代国会仮議事堂を復元する』（ブレット近代文化研究叢書 10）昭和女子大学近代文化研究所 2014 <請求記号 GB621-L2>
- 8 清水英範「ベックマンの東京計画に関する研究—国会議事堂の位置選定を中心として」『土木学会論文集』D3 土木計画学 70(5) 2014 p.1-20 <請求記号 YH247-1182>
- 9 『東京輿論新誌』239[1886.5.19] pp.16-17 <請求記号 雑 54-107 >（『毎日新聞』を転載した記事）

特価本目録は庶民読書の証言者

(前編)

小林 昌樹

国立国会図書館にない本



はじめに——地方読書人が頼りにした通信販売

今回紹介する特価本目録は、通販カタログの一種で、図書館学という「販売書誌」の一種である。しかし、販売書誌は用済みになると廃棄される運命なので「国立国会図書館にない本」でもある。

日本では明治後半から大正にかけて、全国で近代的書店網が整備されていった。それは「雑誌を中心に産業として整備され」たものであり、現在「取次ルート」と呼ばれる機構である。大正末期から新刊書籍もこのルートで買えるようになったが、それでもなお戦前期、書店が近くにない地方で書籍を買うには通信販売に頼らざるをえなかった。そこで新聞広告に並行して登場するのが、通

販カタログである。日本で最初期の企業PR誌と見なされている丸善『学燈』(1897、のち『学燈』)は、前身が販売書誌『和洋書籍及文房具時価月報』(次ページ、1883年創刊とされる)であったし、さまざまな出版社の本を載せた青木高山堂の『内外書籍出版発兌目録』は通販カタログとして有名だ。「山々にかこまれ」た兵庫県の寺に生まれ、のち英文学者となる寿岳文章(1900・1992)は、尋常小学校を出た明治44(1911)年頃のこととして、こんな回想をしている。

檀家の子弟に文学ずきなのがあり、その家から有朋堂文庫や紅葉全集を借りてむさぼり読み、博文館・新潮社・青木高山堂などの出版目録をとりよせ、文学書直接購入の習慣

『和洋書籍及文房具時価月報』第73号
明治22(1889)年10月(個人蔵。
筆者及び出版史家・戸家誠。以降の目録も同様)



も身につけた。

神戸を擁する兵庫県ですら、本屋のない地域が明治末の郡部にはあったのである。しかし、そこにも「本ずき」はいた。

読書公衆の出現——明治末から大正期

本屋のない郡部にも寿岳少年のような「本ずき」が生まれたのは、明治末に初等教育が全土に及び、日本

全体が一応「本を読む人々」で覆われたからである。英語でいう reading public(読書界、読書公衆)が日本にも成立したのが明治末から大正期である³⁾。

ここに紹介する「特価本目録」は、お金持ちでない読書公衆の中でも、庶民ともいふべき人々のためのものである。寿岳文章が定価で買う通販カタログを回想しているのは、自家が中学へ進学させてもらえるような余裕がある家だったからだ。

戦前期、書籍や雑誌は今よりずっと高価なものだった。書籍だと普通の文芸書なら、いまの感覚だと5千円以上、雑誌でも1冊で3千円ぐらいではなからうか。大正15年に全集セットに編成した「円本」が破格に安く(1冊に普通の3冊分をつめて1円で)、爆発的に数十万部も売れたが、それでも1冊の価格はいまの感覚では「高い本」とされてしまうだろう。

本は高い。ではどうするか

戦前、書籍は高いので「耐久消費

財」として扱われていた。反対に新聞紙は単なる消費財で、読み捨てられた後は、りんごの包み紙などに転用されたり、古紙回収業に出されたものだった。

高い耐久消費財を安く入手するには、二次流通(中古品)を求めることになる。実際、明治末の読書論では「資力豊かならざる読書家が僅少の資を投じて読むに価する書籍を購求せんとす、之れ頗る困事なりと雖も世は便宜なるものにて古本商あり⁴⁾」として、だいたい古本なら新刊の半値だから買いなさい、と言われるようになっていた。

では書籍と新聞の間である雑誌は? これは書籍同様、古本で売られていたのだが、新刊なのに半値以下、という新しい商品「月遅れ雑誌」が開発されたのが、明治30(1897)年前後のこと⁵⁾。これは新刊雑誌の売れ残り「残本」を再流通させる一、五次流通ともいふべきものであった。



明治 30 年頃の読書の様子を描いた雑誌の表紙。
『風俗画報』146号 東陽堂 明治 30
(1897) 年 8 月<請求記号 雑 23-8>

赤本とは？

江戸中期の草双紙の一種。子ども向けの絵本で、表紙が赤いためこの名がある。明治以降には、少年向きの講談本、漫画、絵本などを、表紙が赤を主体にした極彩色であったため、この名でよんだ。転じて、内容、体裁ともに低級俗悪な本を指す。

「特価本」と赤本ルートの誕生 (明治 30 年頃)

おそらく同じ頃、新刊書籍の残本を再流通させることも始まる。これは「特価本」などと呼ばれた。

特価本は、最初、東京など大都市ではテキ屋などによって定価の半値以下で、縁日や露店、長距離列車内、一銭蒸気——一駅一銭の乗合い船——などで売られた。映画『男はつらいよ』第 1 作(昭和 44 (1969) 年)の最終シーンで主人公「フーテンの寅」こと車寅次郎が売っていた(啖呵を切りながら売るので「タンカバイン」とその筋ではいう)商材は、古本ではなく特価本だった。

そして、委託定価売りを前提とした正規の新刊配本ルート(取次ルート)でなく、特価本問屋など、特殊な販売経路でも売られるようになった。ここでは「赤本ルート」と呼んでおく。これは、特価本の発生自体は古書市場だったのだが、その後、江戸期以来の地本問屋、つまり赤本

屋が、特価本を引き受けて全国規模に流通させることになったからである。

このルートに乗った本をカタログ化したものが「特価本目録」である。特価本は、義務教育で読み書きが浸透した新たな読者層に広まっていた。「円本」ブームの反動で、昭和 4 (1929) 年頃から出版社が大量の売れ残りをかかえると、赤本ルートはさらに大発展し、昭和 10 (1935) 年段階で東京に約 50 軒、大阪に 10 軒、京都、名古屋にそれぞれ 5 軒ほどの特価本問屋が成立していた。

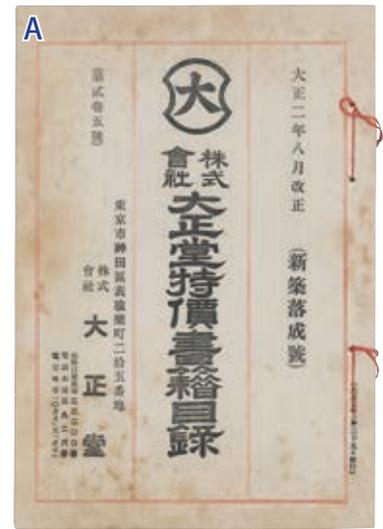
これらの問屋から、露店商、テキ屋、古本屋、地方の新刊書店、駄菓子屋、小間物屋、通信販売業者などが特価本を仕入れて、個人へ販売した。昭和 16 (1941) 年段階で、全国で教科書、雑誌を含め 1 年間で 3 億冊の本が売り買いされたが、そのうち約 2 割が特価本だったという統計が残っている。

赤本ルートと特価本の研究

非正規の赤本ルートや特価本については、宮本大人による赤本マンガに焦点を当てた論考⁽¹⁾、柴野京子による取次ルート成立と対比させた論考⁽²⁾、各版元を紹介する小田光雄による論考⁽³⁾があるが、国立国会図書館にない本ということで、今回、出版史研究者・戸家誠による長年のコレクションを借りることができた。また、筆者個人が最近集めたものも合わせて、系統的に紹介したい。

特価本問屋の目録と、一般向けの目録

現在残っている特価本目録を集めてみると、業者向けのカatalogと個人向けのカatalogの 2 系統に大別できる。今風に言えば、BoB (Business to Business) と BoC (Business to Consumer) に分けられる。以下、前編では、最初期の大正堂を除き、業者向けのものを発生順に紹介する。



『大正堂特価書籍目録』第2巻5号 大正2(1913)年7月
 A 表紙。
 B 目録の冒頭に掲載された大正堂の外観。
 C 特価目録には著名人の本から実用書まで様々なものが並んでいる。

国立国会図書館にある本



(右) 徳富猪一郎(蘇峰)著『七十八日遊記』民友社 明39 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/761994> (モノクロ画像)
 (左) 岡不崩 述、杉本夢香 編『朝顔図説と培養法』民友社 明42 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/839956> (モノクロ画像)

C

第二巻第五號特價目録

著者	書名	定価	特価
徳富猪一郎	七十八日遊記	1000	250
岡不崩	朝顔図説と培養法	1000	250
...

定価の3分の1の25銭 (= 250 厘) !

通販なので送料が大事!

大正堂特価書籍目録

(株) 大正堂は博文館営業部次長でもあった田中六蔵が経営した大規模な特価本屋。目録掲載の写真で神保町の店舗が立派なことがわかる(B)。

目録に掲載されている本は硬めの本が多い。各出版社の書籍を半値以下の特価で売るだけでなく、通常の新刊も扱う。定価が守られるようになる以前の時代なので、「普通一般ノ書籍」は一割引きなのに対し医学書は定価通りなど、小売値相場がジャンル別に一覧されているこの目録は貴重。

大正堂は同時期に『東京朝日新聞』などへも「本社の趣旨 時代の趨勢に鑑み各種良書を大安価に特売仕り聊か読書界に貢献せん」と⁽¹³⁾と広告を出しているので、個人への小売りがメインだったようだが、当時の小商い入門書⁽¹⁴⁾によると卸売もしていた。大規模かつ博文館系列であるのに後世ほとんど大正堂へ言及のないのは、このうち定価販売を推進した側の大手出版社系列ゆえだろう。明治45(1912)年から大正8(1919)年頃まで活動。



『春江堂圖書月報』10月号 昭和4（1929）年10月

D 表紙。

E 漫画漫文叢書の案内。

F 実用書の数々。時には春江堂以外の出版物の宣伝も。

国立国会図書館にある本



(右) 家庭料理講習会 編『おいしい料理の拵へ方』春江堂 昭和3 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1031355> (モノクロ画像)
 (左) 女子作法研究会 編『礼儀作法一切の心得』春江堂 昭和3 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1456958> (モノクロ画像)

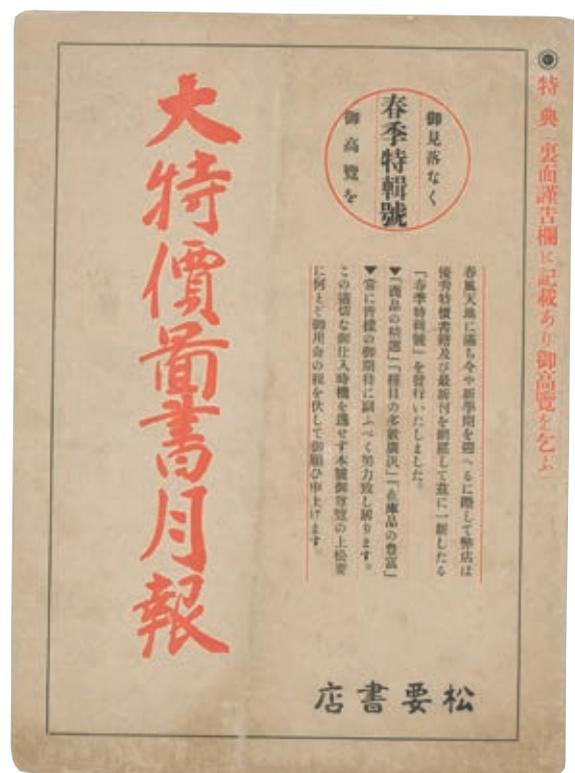
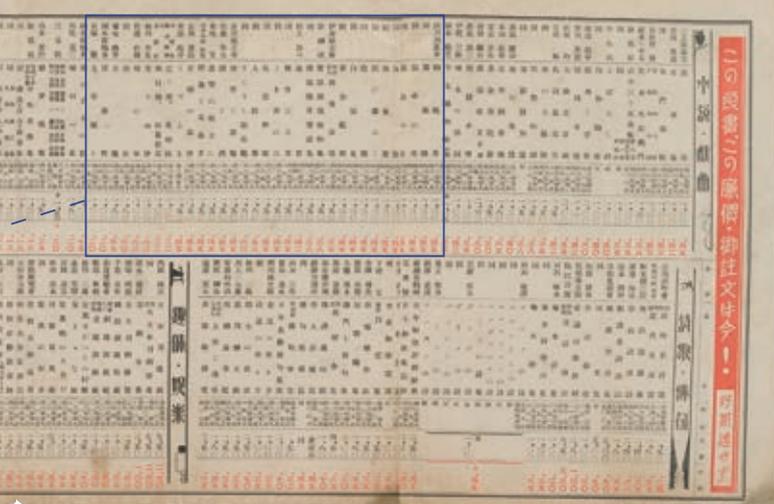


春江堂圖書月報

社員50名を擁し、当時最も近代的な経営をしていたと評される特価本問屋、春江堂による月刊目録。その昭和4（1929）年10月号。少なくとも大正3（1914）年からの月報が確認される。巻末の「春江堂取引案内」を見ると、業者を前提にしたカタログらしいが、図版をちりばめた楽しいもの。

特価本として赤本（通俗児童書）やその一種である漫画が扱われていることがよくわかる（E）。大人漫画なども売っており、料理書など実用書も売っていることがわかる（F）。こういった実用書や趣味本を地方零細書店が仕入れて売っていたらし

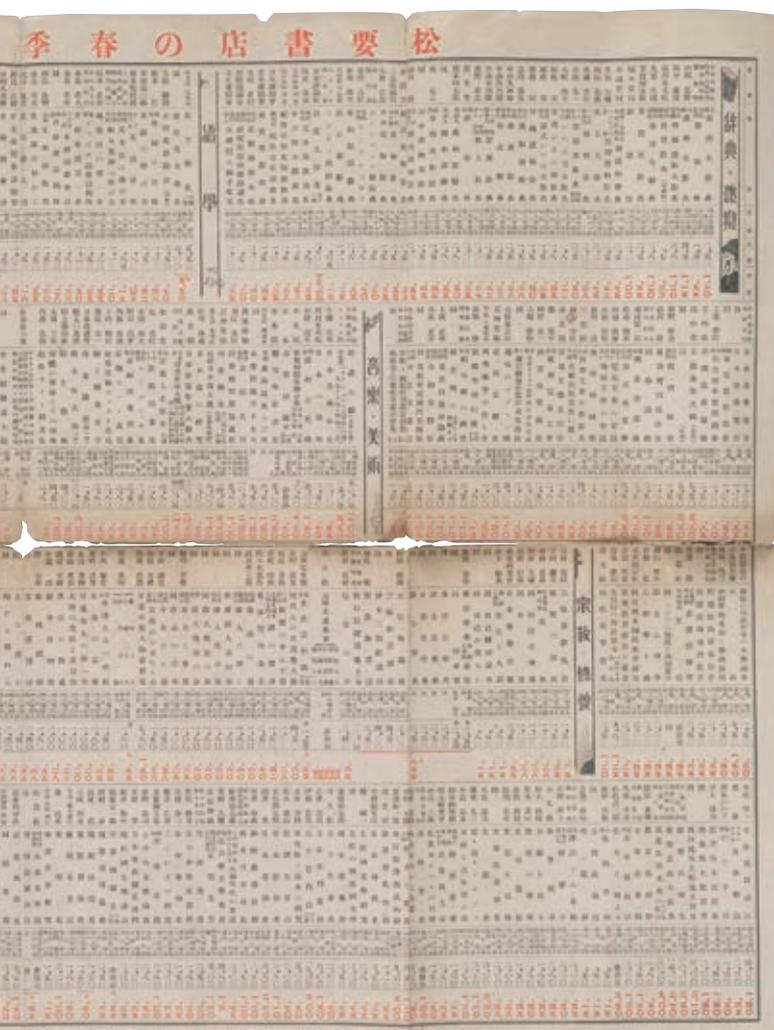
また、春江堂が刊行した実用書も多い（上面像）。江戸期から戦前にかけて「本屋」は小売、卸、出版、古本いずれも適宜、行う傾向だった。



『大特価図書月報』昭和11(1936)年

裏返すと、さらに本が!

広がると……特價本がいっぱい!



大特価図書月報 (松要書店)

大阪での最大手、松要書店によるもの。あらゆるジャンルの新刊書籍の価格が定価の2〜3割で列挙されている。おそらく昭和11(1936)年4、5月のもの。もと古紙問屋だった松要書店第二代の松浦貞一が特價本を始めたのは大正3(1914)年頃とされる。
一般向けは後編で。(つづく)

- 1 柴野京子 著『書棚と平台 出版流通というメディア』弘文堂 2009 p.210 <請求記号 UE111-J35>
- 2 寿岳文章、寿岳しづ 著『寿岳文章・しづ著作集 第2 ある夫婦の記録』春秋社 1970 p.375<請求記号 US21-12>
- 3 柳与志夫、田村俊作 編『公共図書館の冒険 未来につながるヒストリー』みすず書房 2018 pp.64-67<請求記号 UL244-L172>
- 4 横田章 著、大町桂月 校『読書力の養成』広文堂 1909 p.57 <https://dlndl.go.jp/info:ndljp/pid/897152/35>
- 5 小林昌樹 『『月遅れ雑誌』のはじめは明治30年ごろ 特價本の流通史』『文献継承』36号:2020.11 pp.5-8 (当館未所蔵)
- 6 同義語に戦前のものとして「残本」「数物(カズモノ)」「数本(カズホン)」「見切本」「ゾッキ本」「特殊本」「特種本」がある。俗悪な本という意味で「赤本」と総称されることもある(対義語は「堅本(カタホン)」。『バーゲンブック』B本」「自由価格本」は戦後の言い換え語。ここでは最も長期的に使われ、本質も表す「特價本」を採用した。

(次ページへ続く)



関西館書庫ツアー with コロナ

関西館総務課総務係は、例年11月に行われる「関西館見学デー」というイベントの運営を担当しています。昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、少人数で接触機会のより少ない「書庫ツアー」というイベントに変更して、11月8日(日)に実施しました。イベントの準備から、当日までの様子をお伝えします。

① 連想ゲームの果てに

準備段階における私の主な業務はチラシの作成でした。まずは思いつくがまま、連想ゲームのように「書庫…地下…暗い…本棚…迷路…非常食…探検…」と浮かんだ言葉を羅列します。今回は、「書庫」「暗い」「探検」を主要なテーマに、2つのデザイン案を作成しました。ひとつは、探検のワクワク感を前面に出そうとしたもの、もうひとつは実際の書庫内の写真で人目を引こうとしたものです。感染拡大防止策の周知のために入れ込むべき文言が多く、テキストの配置に苦労しました。最終的には、上司や同僚からの評判の良かった、書庫をライトで照らしたようなデザインはそのままに、テキスト部分を紙面下部に寄せる形に落ち着きました。我々はデザインのプロではなく、また、この業務に割ける時間には限りがあります。伝え

たい情報を伝え、かつ人目を引く広報物を作るのは大変難しいことです。今回は、幸いにして多くの参加申込みがあり、ほっとしました。

② ほどよいマスクの必要性

書庫ツアー当日には、書庫のご案内も担当しました。総務係は、普段の業務の一環として見学案内を担当していますが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、しばらく見学受付を休止していました。ご来館の皆様にお目にかかるのは久しぶりなので、張り切ってツアーに臨みました。マスク着用でのご案内は初めての体験です。説明の声が通りにくく、また息を吸うごとにマスクが口に張り付き、予想以上の息苦しさでした。その後、見学案内に向きそうなマスクを探し続けています。

コロナ禍による制約に不便を感じつつも、ご参加の皆様が楽しそうに集密書架のハンドルを回す姿や、気になる点を質問する姿を見て、無事開催することができてよかったですと感じました。厳しい状況が続きますが、関西館について知っていただく機会を作れるよう、今後も試行錯誤を続けたいと考えています。

(関西館総務課 こほろぎ嬢)

本屋に

ない

本



平成30年7月豪雨災害 (広島県) 体験談集

海堀正博、柳迫長三 編著
砂防学会、広島市防災士ネットワーク
2019.3 332p ; 30cm
<請求記号 EG77-M139>

災害の報道に接するたび、我が家の

防災に目が向く。家具の耐震補強から
飼いや猫用の持ち出し物品まで、モノの
備えは充実する一方、「実際どうなる
んだらう……」という漠然とした不安
がぬぐえない。

本書は、西日本を中心に甚大な被害
をもたらした「平成30年7月豪雨」の
記録だ。主に広島県南西部を対象に、
被災者への聞き取りの記録や手記、被
災地の写真や地図などが地域順に収録
され、各地域の被災から復旧作業まで
の様子が、複数の被災者の視点から記
されている。本書の大部分を占める聞
き取りや手記は、なるべく手を加えず
ありのままを収録したものとみられ、
まるで被災者の声に耳を傾けているよ

うな生々しさがある。

例えば、7月6日に土砂災害が発生
したある地区。避難勧告が発令された
ことを知り、近所の人に声をかけ避難
を促した人がいる一方、家の外で避難
を促す放送が聞こえて間もなく木や土
砂が押し寄せたという人、川の音にか
き消されるなどしたためか「外の放送
は聞こえなかった」という人もいる。

また、この地区に限らず、土砂災害
の発生した地域では、「光ってもない
いのにごろごろと雷の音が聞こえてい
た」と、雷鳴についての記録が散見さ
れる。その一つは、あれは山鳴りだっ
たのではないかと述懐する。

人々の言葉から、的確な状況把握や
確実な避難の難しさが見えてくる。

一方、翌朝には帰るつもりで避難

し、「このあとひと月以上体育館生活
になると判っていたら……」と振り返
る人もいる。時に避難生活は長期にわ
たる。避難所の運営に当たったある人
は、日々の活動、避難所の移転をめぐ
る避難者との緊迫したやりとり、マス
コミ対応など、避難所の開設から約2
か月間の出来事を記録している。淡々
とした文面だが、自身の経験を将来へ
つなげたいという思いがうかがえる。

これらの記録の多くは、自宅の復旧
作業中の人や避難所で暮らす人など、
復興の只中にある人々によるものだ。
言葉や写真の端々から、生き延びたこ

とへの安堵とともに、心身の疲労がに
じむ。それでも人々は、8月6日に原

爆弾に手を合わせ、広島東洋カープの
活躍に元気づけられながら、日常の再
建に力を尽くした。

本書の共同編著者の一人、柳迫長三
氏は防災士で、広島市防災士ネット
ワークの代表世話人も務める。元消防
職員として救助活動に当たった経験か
ら、被災者の記録を残し伝えることで
防災・減災につなげようと、本書以前
から複数の体験談集の編集に携わって
いる。同氏は、本書の冒頭で、これが
最後の体験談集となることを切に希望
すると述べている。この言葉の切実さ
を考えると、防災の第一歩となる
だろう。

(山上慶)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

令和3年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

試験の概要

(詳細は試験案内またはホームページをご確認ください。)

種類	受験資格※	受付期間	第1次試験日	会場
総合職試験	S62.4.2～H13.4.1生	R3.3.22 (月) ～4.7 (水)	R3.5.9 (日)	第1次試験は東京及び京都。第2次試験及び第3次試験は東京。
一般職試験 (大卒程度試験)				
施設設備専門職員採用試験 (大卒程度試験)	S57.4.2～H13.4.1生 障害者手帳等所持		R3.6.6 (日)	東京
障害者 (係員級) 採用試験 (大卒程度試験)				

※H13.4.2以降に生まれた方でも、総合職試験は大学卒または卒業見込、それ以外の試験は大学・短大・高専卒または卒業見込であれば受験可能です。

※日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることができない方、平成11年改正前の民法の規定による準禁治産の宣告 (心神耗弱を原因とするもの以外) を受けている方は受験できません。

※申し込むことができる試験の種類は、1つのみです。(総合職試験には一般職試験 (大卒程度試験) と併願できる総合職特別制度があります。)

○職務内容

●総合職試験・一般職試験 (大卒程度試験)・障害者 (係員級) 採用試験 (大卒程度試験)
調査業務、司書業務、一般事務等の館務

●施設設備専門職員採用試験 (大卒程度試験)
施設設備の維持及び管理等に関する業務、設備新営・改修工事に関する設計・監理業務、設備に関する技術に係る調査研究業務並びに当該専門的知識を必要とする業務

○障害のある方へ

受験資格を満たせば、障害者 (係員級) 採用試験 (大卒程度試験)、総合職試験、一般職試験 (大卒程度試験)、施設設備専門職員採用試験 (大卒程度試験) のいずれか1つを受験することが可能です。

障害者 (係員級) 採用試験 (大卒程度試験) 以外の試験を受験する場合も、受験上の配慮を行います。

○試験案内及び受験申込書の入手方法

次のいずれかの方法で入手可能です。

- ・東京本館、関西館または国際子ども図書館に來館
- ・郵便で請求

・国立国会図書館ホームページからダウンロード
郵便での請求方法やダウンロード方法は、国立国会図書館ホームページの採用情報のページを参照してください。

<https://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

○問合せ・資料請求先

総務部 人事課 任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電話 03 (3506) 3315 (直通)

FAX 03 (3581) 1758



国立国会図書館 採用案内

National Diet Library
2021

採用案内/パンフレット 2021 表紙

NDL Topics

研究会「新たな現代中国研究の推進―国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」開催のご案内

国立国会図書館は、公益財団法人東洋文庫と共催で、研究会「新たな現代中国研究の推進―国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」を開催します。本研究会では、国立国会図書館関西館が所蔵する上海新華書店旧蔵書コレクションを使用した研究等について、発表等を行います。開催要領は左記のとおりです。

○日時 令和3年4月17日(土) 10時30分～16時30分

○開催方式 Web会議システムを用いたオンライン開催

○内容 プログラム等の詳細は、左記をご覧ください。

国立国会図書館リサーチ・ナビ

「国立国会図書館関西館・(公財)東洋文庫合同企画研究会『新たな現代中国研究の推進―国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって』」
<https://navi.ndl.go.jp/asia/entry/toyo2021.php>

○参加費 無料

○申込方法 参加ご希望の方は、右記のページからフォームにアクセスし、必要事項をご記入の上、お申込みください。当日までに参加に必要なリンク等をお伝えします。

○申込期限 令和3年3月31日(水)

ただし、定員(約30人)に達しましたら締め切ります。

○問合せ先 関西館アジア情報課アジア第一係
電子メール nl-asia2@ndl.go.jp

電話 0774(94)9115

FAX 0774(98)1390

国際子ども図書館展示会「スポーツと子どもの本」

国際子ども図書館では、スポーツをテーマとした子どもの本の展示会「スポーツと子どもの本」を、3月9日(火)から6月13日(日)まで開催します。

この展示会では、からだを動かす楽しさを表現した絵本や、スポーツを題材に子どもたちの日常や成長を描いた児童文学などをご紹介します。また、1964年の東京オリンピックを、当時出版された子ども向け雑誌などを通して振り返るほか、近年注目度が高まっているパラリンピックについての児童書も展示します。

子どもの視点から、本の中のスポーツをお楽しみください。

○開催期間 3月9日(火)～6月13日(日)

※月曜日、国民の祝日・休日(5月5日のこどもの

日は開館)、毎月第3水曜日(資料整理休館日)は休館

※開催予定が変更になる場合があります。最新情報については、国際子ども図書館ホームページなどでご確認ください。

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課展示係
電話 03(3827)2053(代表)

#22 国際子ども図書館ホール

photo by Kenzi



展示会「スポーツと子どもの本」ちらし

新刊案内

レファレンス 840号

令和3年の年頭のご挨拶

小特集：新型コロナウイルス感染症と経済

新型コロナウイルス感染症と日本経済―家計及び企業部門への影響と政策対応―

新型コロナウイルス感染症拡大のエンタテインメント

分野への影響と支援

イギリス憲法上の議院内閣制における信任―憲法慣習上の信任案件を中心に―

イギリス憲法上の議院内閣制における信任―憲法慣習上の信任案件を中心に―

日米英における条約の国内実施―議会の役割と国内法秩序の在り方―

日米英における条約の国内実施―議会の役割と国内法秩序の在り方―

法秩序の在り方―

法秩序の在り方―



A4 94頁 月刊 1,000円(税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

令和2年度東日本大震災アーカイブシンポジウム「これまでの10年とこれからの10年」を開催しました

令和3年1月11日、オンラインにて、東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所との共催により、毎年1月に開催しているものです。オンラインによる開催はこれが初めてです。

今年度は、震災アーカイブの事例報告として、岩手県大槌町の取組と、福島県の東日本大震災・原子力災害伝承館の取組が報告されました。また令和3年は東日本大震災発災から10年の節目の年となることを踏まえ、震災アーカイブのこれまでの10年について、県立図書館、メディア、国立国会図書館、研究者のそれぞれの立場からの総括報告が行われました。

続くパネルディスカッションでは、震災アーカイブのこれまでの取組の総合的な達成度や今後の方向性についての意見交換が行われ、アーカイブ事業の継続性や今後増えてゆく東日本大震災を知らない世代への記憶の伝承にどのように震災アーカイブを活用していくかといった課題が共有されました。

*シンポジウムの詳細は、左記に掲載しています。

<https://kn.ndl.go.jp/static/2020/11/12>

おもな人事

△退職(出向)▽

令和2年12月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任 森田 倫子

△異動▽※()内は前職

令和3年1月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任 (衆議院常任委員会専門員 農林水産委員会専門員) 梶原 武

令和3年は、左記の号を合併号として刊行する予定です。

・721/722号(令和3年5/6月)

・723/724号(令和3年7/8月)

・725/726号(令和3年9/10月)



3

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2021.3

NO.719
MARCH
2021

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Edo jiman meisan zue—Battle of Edo specialty product all-stars
- 05 Exhibition on Parliamentary Government Commemorating the 130th Anniversary of the Establishment of the Diet
The Diet and its chambers where history is made
—Looking back at that history with visual materials
- 16 Books not found in the NDL
Trade catalogs of specially priced books show the reading habits of ordinary people (Part one)
- 24 <Tidbits of information on NDL>
Guided tour of the Kansai-kan Storage Annex in the COVID-19 pandemic
- 25 <Books not commercially available>
Heisei 30nen 7gatsu gou saigai (Hiroshimaken) taikendanshu
- 26 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和3年3月号 (No.719)

令和3年3月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 三浦良文
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 1 . 3

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六